

主催：大阪市立大学GCOE都市論ユニット／大阪市立大学大学院文学研究科重点研究
／近世大坂研究会／ぐるーぷ・とらっど3

日時：2009年7月18日(土)・19日(日)

会場：大阪市立大学 高原記念館 学友ホール

18日 事例報告 13:00~17:30

塚田 孝 (大阪市立大学)

「近世大坂の身分的周縁—問題提起をかねて」

井上 徹 (大阪市立大学)

「依るべきは無頼か郷紳か?—明末の都市広州の米騒動と救済—」

マーレン・エーラス (プリンストン大学・院生)

「大野藩の古四郎と救済」

三田 智子 (大阪市立大学・院生)

「畿内のかわた村—竹皮流通をめぐる—」

竹ノ内 雅人 (飯田市歴史研究所)

「天保期江戸における修験・神職の移住政策とその影響」

及川 将基 (立教大学・院生)

「鯨組組織と鯨場をめぐる諸関係」

中谷 惣 (大阪市立大学GCOE 特別研究員)

「中世後期イタリアの都市文書にみる貧者《pauperes》」

19日 総合討論

問題提起 9:30~12:30

岸本 美緒 (お茶の水女子大学)

「明清期の身分と日本近世の身分」

デビッド・ハウエル (プリンストン大学)

「近世朝鮮の身分社会—日本との比較の試み—」

ダニエル・ボッツマン (ノースカロライナ大学)

「カーストと身分—比較社会史の可能性を探る—」

吉田 伸之 (東京大学) 総括コメント

共同討論 14:00~17:00

【討論者】

問題提起者 (岸本美緒 デビッド・ハウエル ダニエル・ボッツマン 吉田伸之)

井上 徹

塚田 孝

森下 徹 (山口大学) 《近世史の立場から》

大山 喬平 《中世史の立場から》

鈴木 良 《近代史の立場から》

国際円座 近世身分社会の比較史

【円座の開催にあたって】

日本近世の身分社会についての研究は、近年「身分的周縁」を一つのキーワードとして進められている。これを、明清期の中国や朝鮮の社会、あるいはインドのカースト社会などを含む国際的視野のもとで比較史的に考察することで、さらなる研究の進展を図りたい。

その際、一つの論点として都市社会に展開する周縁的社会集団の存在形態に注目したい。都市社会の成熟は、多様な社会(=身分)集団の展開を促すが、それに着目することで、比較都市社会史の発展につながるものと思われる。

こうした比較史を進めるにあたって、「法と社会」という視角を重視する。「法と社会」の視角とは、①法史料(政治社会全体を覆う法・集団内を規律する法・集団間を規律する法の3レベル)に即して、【法の形式】と【法の内容】の両面から社会の実態に迫る、②当該社会の法的枠組みと社会的実態を統一的に捉える(照応と齟齬の両面、また法的枠組みの社会構成への規定性、社会的実態の法形成への起動力という双方向)という2側面をもつものである。但し、これは固定的なものではなく、分析視角・方法自体の発展を図ることは当然である。

なお、近年各所で多数行われているシンポジウムとは一線を画し、共同での実質的な対話のなかから新しい発見をめざす「円座」という場のもち方にも意味を見出したい。

【総合討論の2つの柱】

2日目は、①身分社会の全体的特質の比較、②都市社会の周縁的社会集団の具体的比較を柱として総合討論を行う。近世日本の身分社会を、明清期の中国や近世朝鮮の身分、インドのカーストと比較・検討する3つの問題提起やそれを受けた総括コメント、1日目の事例報告を踏まえて、問題提起者・討論者を中心に、フロアからの発言も交えて共同討論を行う。

また、円座のテーマとの関連で、次のような議論を参照されたい。

- ・『シリーズ近世の身分的周縁6 身分を問い直す』吉川弘文館、2000年
- ・『身分的周縁と近世社会9 身分的周縁を考える』吉川弘文館、2008年

《会場案内》

大阪市立大学 杉本キャンパス
高原記念館1階 学友ホール
天王寺駅よりJR阪和線 和歌山行き
の各駅停車に乗車。「杉本町」駅にて
下車、徒歩5分。

(キャンパスへは、正門よりお入り下さい)

